



元氣とタイムリーな情報を提供する

五十嵐レポート

発行:「町コン」五十嵐 勉 2025年02月10日 第1205号「週刊五十嵐レポート」

井の中

「井の中の蛙大海を知らず」は、中国の故事「荘子」にある言葉。

井戸の中に住むカエルが、東海に住むカメに自分の住居の楽しさを自慢。カメが海の話をして、海は千里も遠いうちに入らず、千仞(せんじん)の高さも海底の深さに達せず、時の長短や量の多少で計れないのが東海であると語った。カエルは驚いて、返す言葉もなかった。

これは、自分の狭い知識や考えにとらわれて、物事の大局的な判断ができないことを意味する。また、世間知らずやひとりよがり、狭い世界に閉じこもっている様子を指す言葉としても使われる。

米屋の話。米屋から新米の調達の話を受けた。資金調達の話はすぐに終わった。次に米の代金が1.8倍になった。なかなか売価に転嫁することが難しい。値上げしたら取引が打ち切られる恐れがあると。ここで現実を話した。値上げできなければそこで事業は終わり。値上げできない会社が潰れていくか、廃業していきだけ、市場から消えていく。値上げできる会社だけ生き残れる。この米屋は消費者へ小売りはしていない。全て飲食店向けに米を卸している。値上げを認める店はお客で、認めない店はお客でない」と割り切る。一緒にメニューの改定をすること。

しばらく経ってお礼に来た。「厳しいことを言ってくれたお陰で、きちんと値上げ交渉して、値上げができました。全く世の中のことが見えていませんでした。今は逆に良い環境になりました。同業者が米の在庫がないのです。今は米の在庫がある米屋が強いのです。うちに在庫があることを聞きつけて飲食店が米を売ってくれと言ってきます」。

そこで私は言った。「今が良質の顧客を作るチャンス。値上げした米を仕入れて、メニューを値上げできる店を大事にすること。そして顧客の店を地図に落とし込むこと」。米屋は、「頭の中にはあるんですが・・・」。「地図を買って、そこに落とし込むと客観視できる。己を知る。敵を知る。無駄が見えてくる。対策が見えてくる」。米屋はいままでそんなことをしてこなかった。まさに「井の中」。これじゃ廃業してもおかしくない。残されたチャンスに期待しよう。

ちょっと
気になる出来事

2月9日付日経新聞、「このヒト」はCEOに就くソニー・グループ社長、十時裕樹(ととき ひろき)氏。

十時氏は2023年4月に社長に就き、25年4月最高経営責任者(CEO)を引き継ぐ。1987年入社、ソニー銀行の創業を主導するなど会社の枠にとられない挑戦をしてきた。

05年に現ソニーネットワークコミュニケーションズに移り、ディーエヌエーなど新興企業を支援してきた。

エレクトロニクスを中心とする企業体を改め、ゲーム・映画・音楽・半導体などの事業が連携するソニーグループを確立。モビリティの分野ではホンダとEVの開発を進める共同出資会社「ソニー・ホンダモビリティ」を設立。

今でも「ソニー」が健在なのはうれしい限り。モノ作りの製造業からエンターテインメントのプロデュースする会社へ変貌を遂げている。

常に変化し続ける企業の手本のようなもの。見続けていきたい。



一口メモ
知識

風を観(みる)

風の地上に行くは観(かん)なり。(風地観 ふうちかん)

観とは、風が地上をあまねく吹き渡ること。風地観(ふうちかん)の卦(か)は時の変化・方向を知り、兆(めい)しを察する洞察力を説くが、洞察とはいわば風を観ることである。

風は常に流れゆく。目に見えず、耳で聞くこともできないが、体感によってその強さや方向を知ることができる。

時も同じく、目に見えず、耳には聞こえない。しかし、自分の周りのものすべてが、今という時とその方向を示しているのだから、よく観れば見えてくるものである。

「易経一日一言」(致知出版/竹村亜希子)より

- 「戦略社長塾東京」小岩校 毎週日曜日・水曜日 午前10時～12時
- 「戦略社長塾東京」銀座校、武蔵村山校、豊岡校 開講中。

㈱五十嵐コンサルティングオフィス 〒133-0051東京都江戸川区北小岩6-21-5
TEL03-3659-7703 Fax03-3659-7077 info@igarashireport.com

